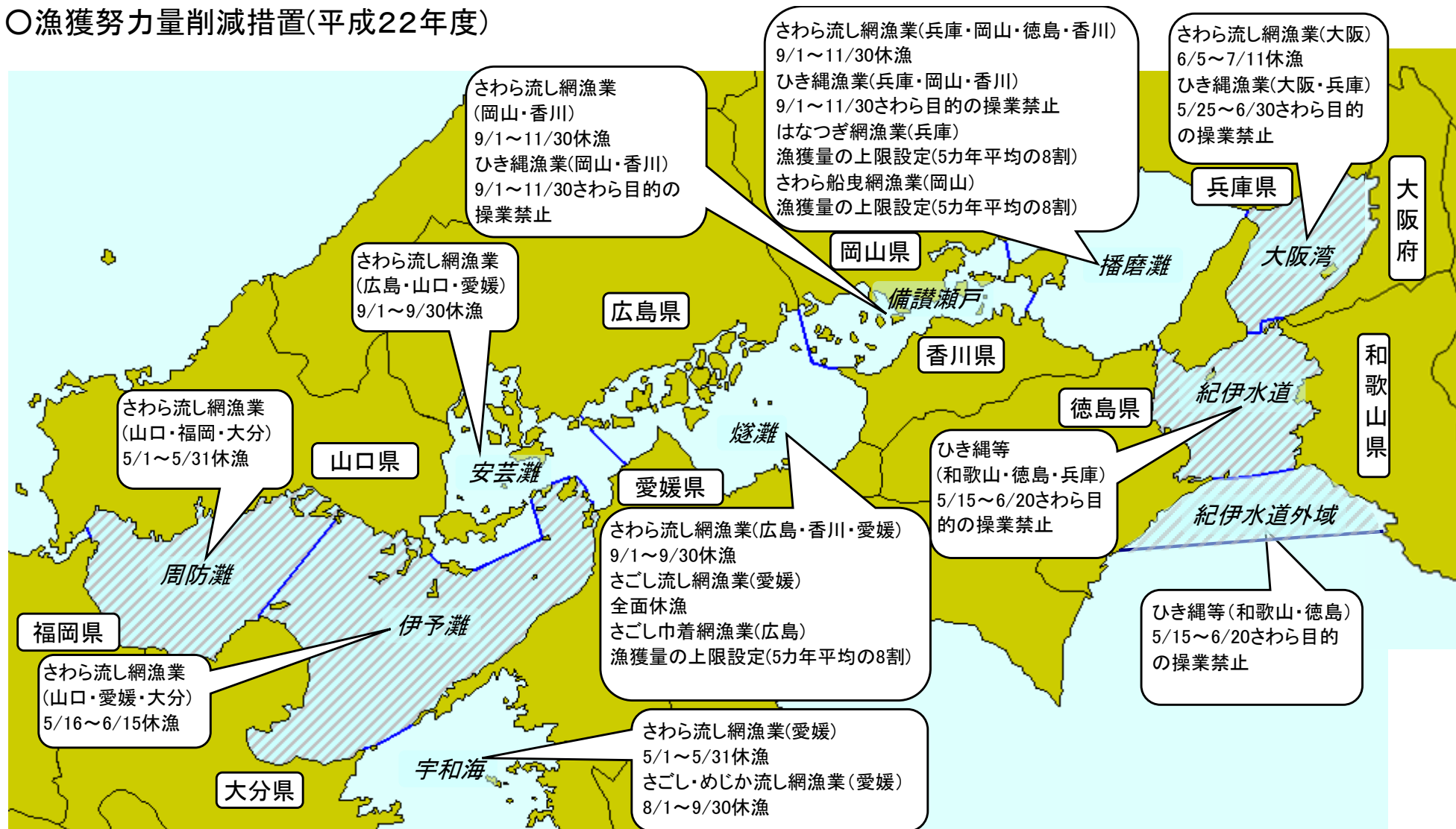


平成22年度 サワラ瀬戸内海系群資源回復計画の取組

○漁獲努力量削減措置(平成22年度)



※斜線部分は、春漁を規制
※さわら流し網の目合い10.6cm以上(瀬戸内海全海域共通)

(参考)資源回復等推進支援事業の内容
大阪、香川、愛媛 : 休漁漁船活用支援事業

○サワラ種苗生産・中間育成の取組状況(平成22年度)



平成22年度 サワラ種苗生産・中間育成等の取組状況一覧

① 採卵

	月 日	採卵海域	受精卵	使用した親魚	協力漁協等
大阪府	5月 3日	大阪湾北東部	極わずか	雄 2・雌 3	大阪府漁連サワラ流網漁業管理部会
	9日	〃	7万粒	雄 2・雌 1	〃
香川県	5月10日	播磨灘南西部	12.5万粒	雄10・雌10	香川県鱈流し刺網協議会
	11日	播磨灘南西部	38.5万粒	雄14・雌19	〃
	12日	播磨灘南西部	28.0万粒	雄 9・雌20	〃
	13日	燧灘	0	雄12・雌29	(市場で採卵)
愛媛県	5月12日	燧灘西部	0	雄 6・雌 0	河原津漁協
	13日	〃	0	雄 1・雌 0	〃
	19日	〃	0	雄 5・雌 7	(市場で採卵)
	20日	〃	12.0万粒	雄 5・雌 8	垣生漁協
	21日	〃	4.0万粒	雄 5・雌 9	垣生漁協
	27日	播磨灘南西部	17.6万粒	雄 5・雌 7	香川県・香川県鱈流し刺網協議会
	〃	燧灘西部	11.2万粒	雄11・雌 2	垣生漁協
	28日	〃	0	雄 3・雌 3	〃

② 種苗生産

	場 所	期 間	生産尾数	平均全長	備考
(独)水産総合研究センター	屋島栽培漁業センター	24日間(5/17~6/ 9)	103,000	36.6mm	※1
	〃	25日間(5/17~6/10)	130,000	36.4mm	※1
〃	瀬戸内海区水産研究所 伯方島栽培技術開発センター	29日間(5/24~6/21)	30,000	45.8mm	
	〃	31日間(5/31~6/30)	29,000	48.9mm	
大阪府	環境農林水産総合研究所 水産技術センター	30日間(5/14~6/12)	21,000	37.4mm	

※1：種苗の一部は屋島栽培漁業センター試験用(継続飼育)の他、新江ノ島水族館へ配布。

③ 中間育成

	場 所	期 間	受入尾数	平均全長	備考(協力漁協等)
瀬戸内海	合 計		282,890		※2
東 部	小 計		225,140		※2
大阪府	阪南市地先	15日間(6/12~6/26)	13,000	37.4mm	大阪府漁連サワラ流網漁業管理部会
兵庫県	洲本市五色町鳥飼地先	12日間(6/10~6/21)	16,765	36.4mm	五色町漁協
	洲本市五色町都志地先	12日間(6/10~6/21)	10,670	36.4mm	〃
	姫路市家島町地先	12日間(6/10~6/21)	21,000	36.4mm	坊勢漁協
岡山県	備前市日生町地先	14日間(6/10~6/23)	22,579	36.4mm	日生町漁協
香川県	さぬき市小田地先	15日間(6/ 9~6/23)	102,000	36.6mm	(財)香川県水産振興基金
	高松市女木町地先	13日間(6/10~6/22)	27,056	36.4mm	女木島漁協・香川県鱈流し刺網協議会
	東かがわ市引田地先	15日間(6/10~6/24)	6,070	36.4mm	引田漁協
屋島栽培漁業センター	屋島栽培漁業センター	19日間(6/10~6/28)	6,000	36.4mm	(餌料試験)
		9日間(6/10~6/18)	20,000	36.4mm	※2
西 部	小 計		57,750		
広島県	呉市音戸町波多見地先	17日間(6/30~7/16)	18,000	48.9mm	呉芸南水産振興協議会
愛媛県	伊予市双海町地先	13日間(6/21~7/ 3)	9,900	45.8mm	上灘漁協・愛媛県栽培漁業基金
	今治市大浜地先	16日間(6/21~7/ 6)	19,850	45.8mm	大浜漁協・愛媛県栽培漁業基金
大分県	大分市地先	13日間(6/30~7/12)	10,000	48.9mm	大分県漁協大分支店

※2：瀬戸内海合計、東部小計尾数には、屋島栽培漁業センターの20,000尾(試験放流用)を含まない。

④放流

	放流場所	放流月日	放流尾数	平均長	備考（協力漁協等）
瀬戸内海	合計		199,752		
東 部	小 計		164,922		
大阪府	泉佐野市・貝塚市地先	6月26日	6,000	100.0mm	大阪府漁連サワラ流網漁業管理部会
兵庫県	洲本市五色町鳥飼地先	6月21日	9,271	81.8mm	五色町漁協
	洲本市五色町都志地先	6月21日	7,992	81.8mm	〃
	姫路市家島町地先	6月21日	19,065	105.0mm	坊勢漁協
岡山県	備前市日生町地先	6月23日	11,524	101.7mm	日生町漁協
香川県	さぬき市小田地先	6月23日	87,000	99.8mm	(財)香川県水産振興基金
	高松市女木町地先	6月22日	18,990	74.6mm	女木島漁協・香川県鱈流し刺網協議会
	東かがわ市引田地先	6月24日	3,180	79.6mm	引田漁協
屋島栽培漁業センター	屋島栽培漁業センター地先	6月28日	1,900	83.4mm	屋島栽培漁業センター
西 部	小 計		34,830		
広島県	呉市音戸町波多見地先	7月16日	4,600	100.8mm	呉芸南水産振興協議会
愛媛県	伊予市双海町地先	7月 3日	7,030	86.3mm	上灘漁協・愛媛県栽培漁業基金
	今治市大浜地先	7月 6日	13,900	93.1mm	大浜漁協・愛媛県栽培漁業基金
大分県	大分市地先	7月12日	9,300	111.8mm	大分県漁協大分支店

⑤直接放流

	放流場所	放流月日	放流尾数	平均長	備考（協力漁協等）
屋島栽培漁業センター	屋島栽培漁業センター地先	6月18日	18,000	59.7mm	試験放流

⑥受精卵放流

府県	月 日	放流場所	実施漁協等	備考 (放流卵数)
大阪府	5月 3日	大阪湾	大阪府漁連サワラ流網漁業管理部会	極わずか
兵庫県	5月17日	播磨灘	坊勢漁協	—
	5月17日	播磨灘五色沖	五色町漁協	21.0万粒
岡山県	5月31日	小豆島北浦沖	牛窓町漁協	25.5万粒
	5月31日	小豆島北浦沖	朝日漁協	30.0万粒
	6月 8日	真鍋島北東沖	大島美の浜漁協	22.0万粒
広島県	5月21日	燧灘田島地先	三原漁協	92.0万粒
	5月28日	安芸灘黒島地先	阿賀漁協	—
徳島県	5月10日以降	播磨灘	北灘・北泊漁協	計数せず
香川県	5月	播磨灘	内海町漁協	計数せず

※3

※3

(注) 百の位を四捨五入し、千粒単位で表示した。

※3：受精卵確保できず、放流実施不能であった。

○ サワラ漁獲量について

1. 瀬戸内海の漁獲量

	漁 獲 量	速 報 値
平成22年		(1,023 トン) ※
平成21年 (概数值)	1,369 トン	(1,036 トン) ※
平成20年	1,116 トン	(752 トン) ※
平成19年	1,081 トン	(803 トン)
平成18年	1,282 トン	(865 トン)
平成17年	1,222 トン	(726 トン)
平成16年	1,464 トン	(878 トン)
平成15年	1,289 トン	(971 トン)
平成14年	983 トン	(669 トン)

[資料]

漁獲量

20年～：海面漁業生産統計調査から [農林水産省大臣官房統計部]

19年：海面漁業生産統計調査から [中国四国農政局]

18年：漁業・養殖業生産統計年報 [農林水産省大臣官房統計部]

14年～17年：瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向 [中国四国農政局]

速報値

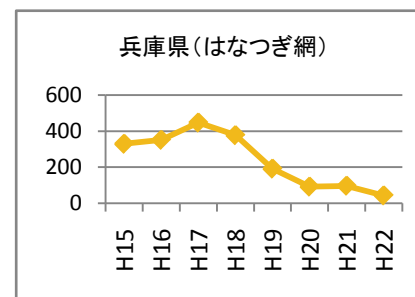
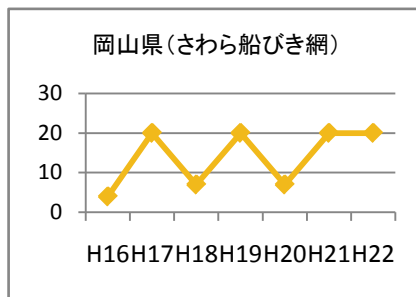
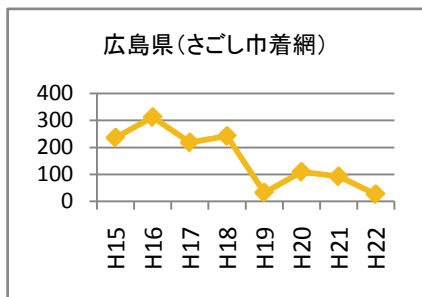
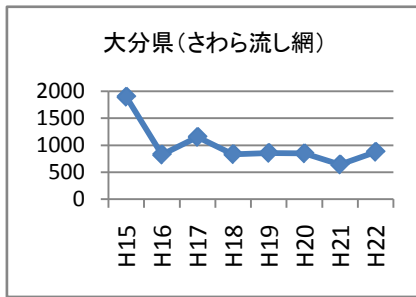
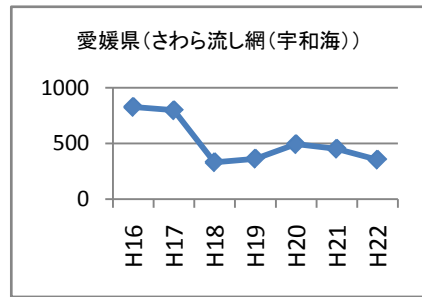
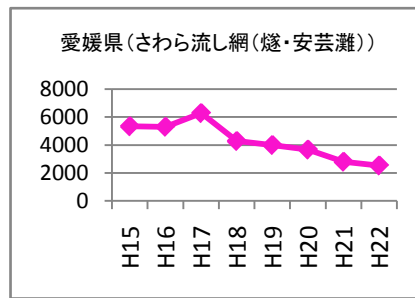
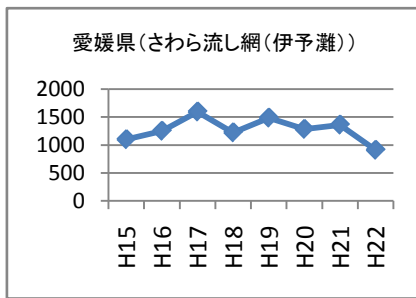
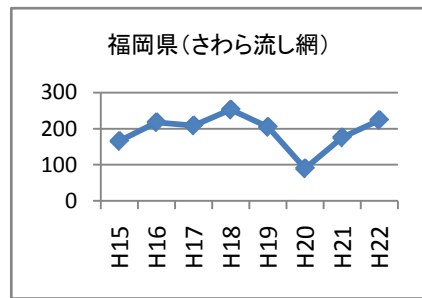
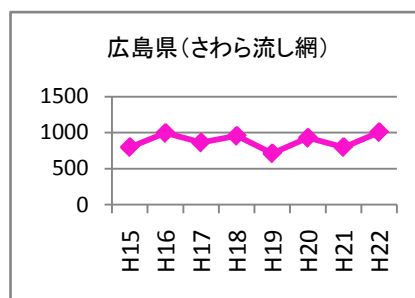
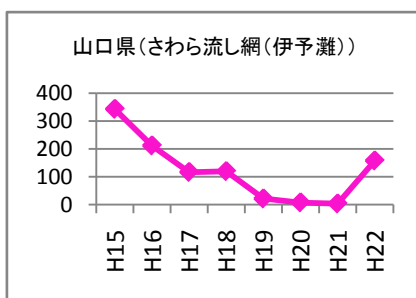
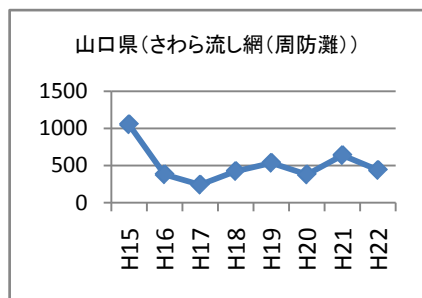
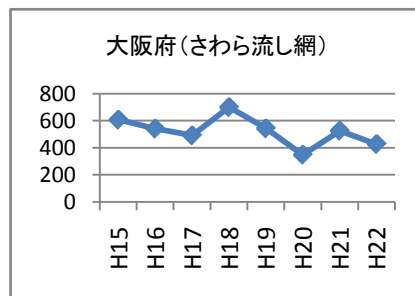
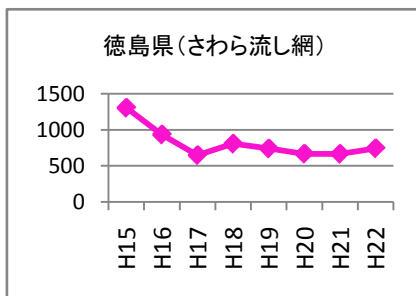
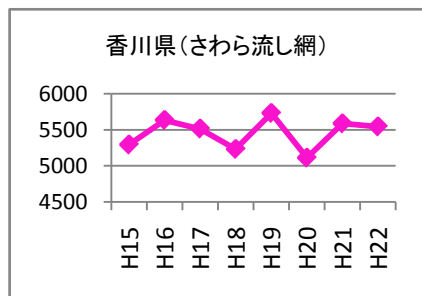
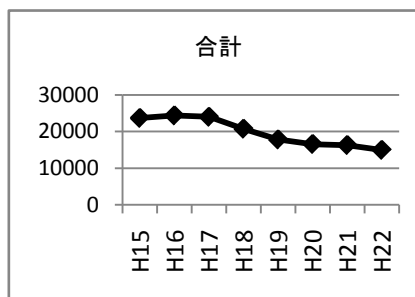
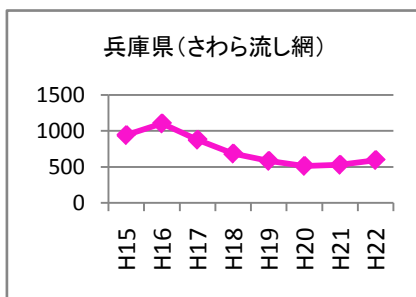
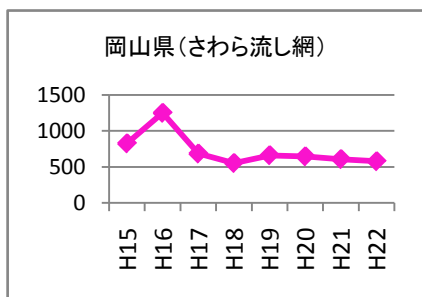
海面漁業生産統計調査から [農林水産省大臣官房統計部]

※ 平成20年から太平洋南区の数値を追加して集計されているため、平成19年までと比較できるように瀬戸内海区の数値を記載。

2. 瀬戸内海広域漁業調整委員会指示第16号で規制されている「はなつぎ網」、 「さわら船曳網」、「さごし巾着網」の漁獲量

区 域	漁業種類	委員会指示による制限	22年漁獲量
播磨灘	はなつぎ網	年間漁獲量40トン以下	5.7トン
播磨灘	さわら船曳網	年間漁獲量 2トン以下	0.2トン
燧 灘	さごし巾着網	年間漁獲量46トン以下	4.9トン

TAE管理期間における出漁隻日数の推移



H22年さわら放流効果調査(さわら流し網試験操業)結果

1 試験操業の実施状況について

サワラの種苗放流効果を把握するため、本年9、10月に牛窓町漁協所属の流し網漁船1隻により、播磨灘北西部において試験操業を4回行った。試験操業に用いた網の長さは10反、網目は2.7寸であった。



試験操業海域

1 試験操業網の状況及び操業海域

操業年度	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
長さ	12反	12反	12反	10及び12反※	10反	10反
網目	2.7寸	2.7寸	2.7寸	2.7寸	2.8寸	2.7寸
船名	第十一天神丸	第十一天神丸	第三忠義丸	第八十八大漁丸	第八十八大漁丸	第八十八大漁丸

※1回目の試験操業時12反、2～3回目の試験操業時10反

2 試験操業の結果について

4回の試験操業により121尾の当歳魚、2尾の1歳魚が漁獲された。1日あたりの漁獲尾数は31尾となり、昨年度よりも減少した。漁獲された当歳魚121尾のうち、3尾が放流魚で、混獲率は2.5%で昨年と比べ減少した。また1歳魚2尾のうち、放流魚はみられなかった。

2 試験操業日及びサゴシ(0歳魚)の漁獲状況

年度	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年		平成21年	
	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数
	10/4	1	10/16	123	10/15	20	10/9	9	9/24	158
	10/12	17	10/19	76	10/19	32	10/15	54	10/1	58
	10/19	32	10/25	19	10/22	3	10/21	134	10/13	51
	10/21	9	10/30	24	10/25	13			10/22	33
	10/26	6								
	10/28	31								
計		96		242		68		197		300
CPUE										
尾/隻		16.0		60.5		17.0		65.7		75.0
尾/反		1.3		5.0		1.4		6.2		7.5

年度	平成22年	
項目	試験日	漁獲尾数
	9/29	49
	10/7	22
	10/12	38
	10/18	12
計		121
CPUE		
尾/隻		30.3
尾/反		3.0

3 サゴシ(0歳魚)の大きさ

項目	漁獲サゴシ			うち放流サゴシ		
	漁獲尾数	平均尾又長 (mm)	平均体重 (g)	漁獲尾数	平均尾又長 (mm)	平均体重 (g)
平成17年	96	499 (436~562)	1,068 (770~1,473)	13	524 (473~549)	1,302 (1,081~1,473)
平成18年	242	485 (364~530)	1,005 (500~1,336)	104	497 (448~530)	1,083 (823~1,336)
平成19年	68	514 (398~582)	1,219 (544~1,668)	20	532 (501~582)	1,369 (1,130~1,668)
平成20年	197	474 (432~628)	852 (583~1,850)	1	499	1,016
平成21年	300	465 (402~616)	744 (539~1152)	14	472 (436~541)	857 (675~1152)
平成22年	121	432 (370~518)	652 (459~1084)	3	443 (423~462)	722 (622~859)

平成22年さわら流しさし網漁船による試験操業結果(香川県)

1 試験操業網の状況及び操業海域

網目	長さ											
	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	～ 2010年	
弘栄丸 2.4~2.5寸	15反											
2.7寸		15反	15反	15反	15反	15反	15反	15反	15反	15反		15反
眞栄丸 2.4~2.5寸	15反											
2.5寸		12反	8反	6反								
2.7寸				9反	14反	15反	15反	15反	15反	15反		15反
2.8寸			4反									
3.3寸			2反									

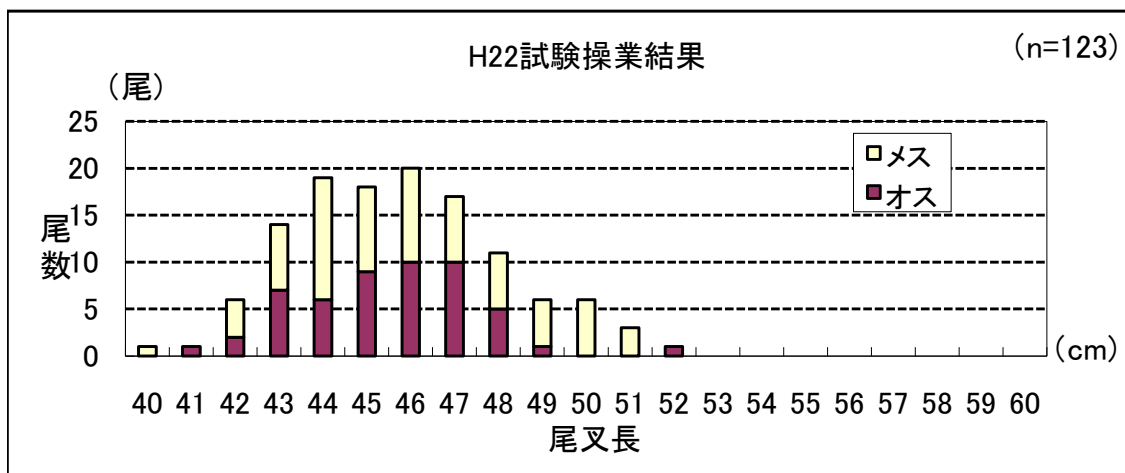
2 試験操業日及びさごし(0歳魚)の漁獲状況

1998年		1999年		2000年		2001年		2002年		2003年		2004年	
試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数
11/11	0	10/4	63	10/6	6	10/19	26	10/15	95	10/6	32	10/11	0
11/13	13	10/25	9	10/19	3	10/26	79	10/23	116	10/15	6	10/25	0
		11/17	1	11/6	1			10/30	78	10/20	5	10/31	1
計	13		73		10		105		289		43		1
CPUE													
(尾/隻)	3.3		12.2		1.7		26.3		48.2		7.2		0.2
(尾/反)	0.2		0.9		0.1		1.8		3.3		0.5		0.0

2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数
10/3	18	10/10	85	10/5	47	10/8	26	10/13	17	10/14	95
10/12	32	10/16	32	10/15	14	10/15	49	10/20	3	10/22	9
10/27	84	10/25	8	10/22	11	10/28	32	10/28	12	10/28	19
	134		125		72		107		32		123
CPUE											
(尾/隻)	22.3		20.8		12.0		17.8		5.3		20.5
(尾/反)	1.5		1.4		0.8		1.2		0.4		1.4

3 さごし(0歳魚)の大きさ

	漁獲さごし			うち放流サワラ			
	漁獲尾数	平均尾叉長 (mm)	平均体重 (g)	漁獲尾数	混入率	平均尾叉長 (mm)	平均体重 (g)
1998年	13	593 (545~638)	1,707 (1,337~2,071)	0	0%	—	—
1999年	73	500 (425~598)	1,149 (647~1,737)	2	3%	470 (468~472)	1,012 (980~1,044)
2000年	10	508 (466~575)	1,148 (935~1,540)	0	0%	—	—
2001年	105	486 (436~546)	944 (593~1,239)	0	0%	—	—
2002年	289	476 (422~556)	885 (611~1,414)	9	3%	491 (422~540)	1,039 (687~1,414)
2003年	43	479 (446~524)	961 (741~1,256)	11	26%	497 (480~516)	1,088 (1,013~1,214)
2004年	1	565	1,641	0	0%	—	—
2005年	134	488 (415~550)	1,003 (634~1,411)	8	6%	508 (480~550)	1,183 (959~1,411)
2006年	125	471 (392~520)	944 (562~1,276)	42	34%	480 (437~520)	1,007 (791~1,276)
2007年	72	495 (372~560)	1,073 (508~1,572)	23	32%	505 (432~560)	1,174 (691~1,572)
2008年	107	460 (353~537)	865 (424~1,312)	1	1%	497	1,071
2009年	32	490 (448~530)	923 (742~1,232)	0	0%	—	—
2010年	123	453 (396~515)	733 (455~1,177)	3	2%	478 (467~491)	917 (835~999)



平成 22 年度さわら流しさし網試験操業結果

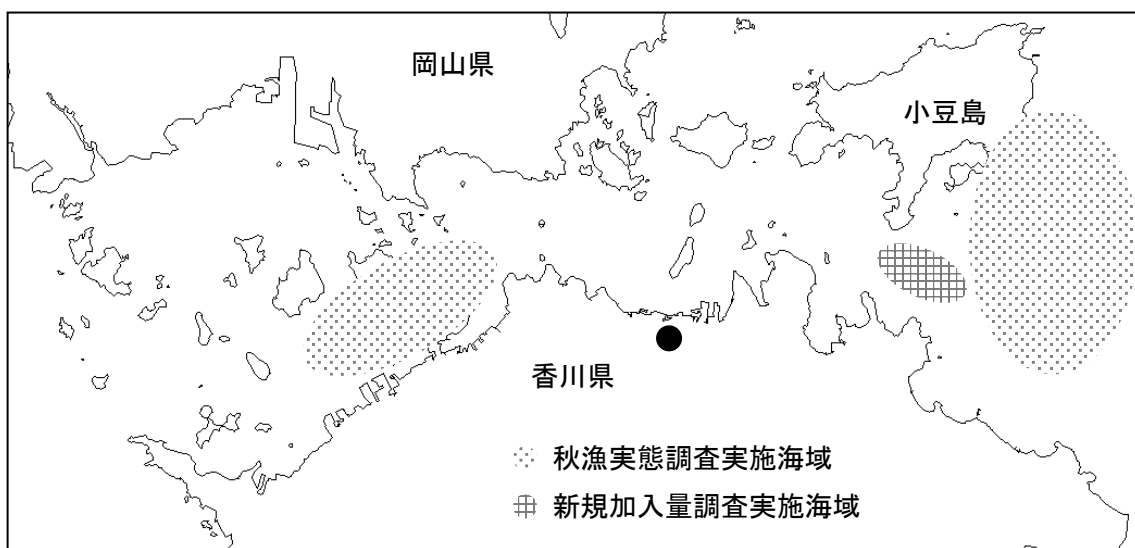


図 1 さわら流しさし網試験操業海域

1. 秋漁実態調査

(1) 播磨灘海域

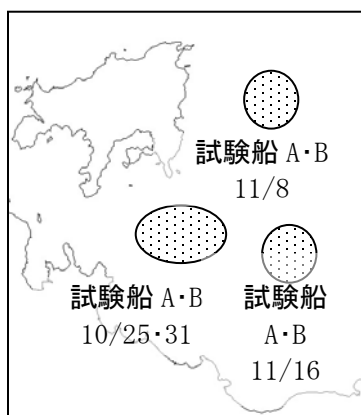


図 2 試験海域 (播磨灘)

方法

2 隻のさわら流しさし網漁船を用いて、10 月 25・31 日及び 11 月 8・16 日に、播磨灘西部海域で調査を実施した (図 1, 2)。

試験船 A は、網目 3.5 寸、深さ 31m、幅 15 反 (約 1,500m)。試験船 B は、網目 3.5 寸、深さ 31m、幅 14 反 (約 1,400m) のさわら流しさし網を用いた。投網は 17 時 20 分頃に終了し、18 時 50 分頃から、網揚げを開始した。いずれの調査も、網を 90 分ほど流した。

結果

延べ 8 隻の操業で、サワラ (体重 2kg 以上) とサゴシ (体重 2kg 未満) をそれぞれ 5 尾ずつ採取した。

採取したサワラは、1 歳魚が 4 尾、2 歳魚が 1 尾、サゴシは 0 歳魚が 4 尾、1 歳魚が 1 尾であった (表 1)。

採取したサワラ類に標識魚の混入はなかった。

表 1 採取したサワラ類

日	播磨灘			
	試験船 A		試験船 B	
	サワラ	サゴシ	サワラ	サゴシ
10/25	0	0	1	0
10/31	1	1	0	0
11/8	0	1	0	0
11/16	1	1	2	2
計	2	3	3	2

(2) 備讃瀬戸海域

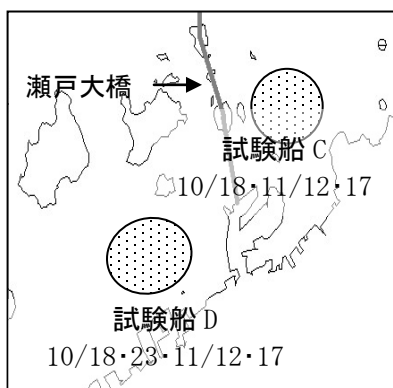


図3 試験海域（播磨灘）

表2 採取したサワラ類

日	備讃瀬戸			
	試験船C		試験船D	
	サワ	サゴシ	サワ	サゴシ
10/18	1	0	4	0
10/27	—	—	1	1
11/12	2	0	11	5
11/17	2	1	4	4
計	5	1	20	10

方法

10月18日及び11月12・17日には2隻、10月27日には1隻のさわら流しさし網漁船を用いて、備讃瀬戸中部海域で調査を実施した（図1,3）。

試験船Cは、網目3.5寸と3.8寸を連結（構成比4:6）し、深さ24m、幅620m。試験船Dは、網目3.6寸、深さ15m、幅620mのさわら流しさし網を用いた。

投網は17時20分頃から18時頃に終了し、18時30分頃から19時20分に網揚げを開始した。いずれの調査も、網を90分ほど流した。

結果

延べ7隻の操業で、サワラを25尾、サゴシを11尾採取した。

採取したサワラは、1歳魚が22尾、2歳魚が3尾、サゴシは0歳魚が11尾であった（表2）。

採取した1歳のサワラに、ポイントリング（小田中間育成放流魚）標識魚が3尾混入した。

2. 新規加入量調査

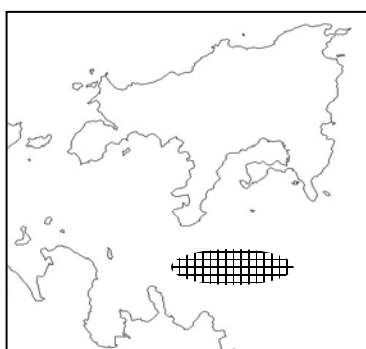


図4 試験海域

表3 採取したサゴシ

日	備讃瀬戸	
	試験船E	試験船F
	サゴシ	サゴシ
10/14	40	55
10/22	3	6
11/28	8	11
計	51	72

方法

2隻のさわら流しさし網漁船を用いて、10月14・22・28日に播磨灘西部海域で調査を実施した（図1,4）。

試験船E・Fともに、網目2.7寸、深さ31m、幅15反（約1,500m）のさわら流しさし網を用いた。

投網は16時50分頃に終了し、17時30分頃から網揚げを開始した。いずれの調査も、網を40分ほど流した。

結果

延べ6隻の操業で、サゴシを123尾採取した。

採取した、サゴシはいずれも0歳魚であった（表3）。

採取したサゴシに、ポイント（東部中間育成放流魚）標識魚が1尾、ポイントリング標識魚が2尾混入した。

(参考)

1. 秋漁実態調査の経済性

播磨灘は、サワラとサゴシのほかに 11 魚種が混獲された。混獲魚を重量ベースで比較すると、シイラが 86.4%、ヒラソウダが 25.2%で、この 2 魚種が多く漁獲されていた。

備讃瀬戸は、サワラとサゴシのほかに 13 魚種が混獲された。混獲魚を重量ベースで比較すると、シログチが 37.9%、コイチが 23.4%で、この 2 魚種が多く漁獲されていた。

漁獲物の単価を、調査時の(株)香川県魚市場の単価と同じとして水揚げを算出したところ、播磨灘の総水揚額は約 50.5 千円、1 回の操業で 1 隻当たりの水揚額は約 6.3 千円、備讃瀬戸の総水揚額は約 129.0 千円、1 回の操業で 1 隻当たりの水揚額は約 18.4 千円となった(表 4)。

表 4 海域別魚種別金額

播磨灘					備讃瀬戸				
魚種	尾数 (尾)	重量 (kg)	単価 (円/kg)	金額 (千円)	魚種	尾数 (尾)	重量 (kg)	単価 (円/kg)	金額 (千円)
サワラ	5	13.5	1,500	20.28	サワラ	25	69.5	1,500	104.21
サゴシ	5	6.0	1,000	6.04	サゴシ	11	12.2	1,000	12.23
カワハギ	21	3.9	950	3.71	アジ	1	0.4	400	0.17
キヌ	10	6.8	150	1.03	休ダイ	1	0.2	700	0.13
クマエビ	2	0.0	5,000	0.05	カワハギ	6	1.1	950	1.04
サバ	1	0.2	200	0.04	コイチ	14	13.9	200	2.77
シイラ	48	86.4	100	8.64	サバ	3	0.5	200	0.10
シロサメ	1	1.2	100	0.12	シログチ	53	22.5	100	2.25
タチウオ	1	0.4	200	0.08	シロサメ	3	7.2	100	0.72
ヒラ	1	1.4	100	0.14	スズキ	4	5.4	400	2.16
ヒラソウダ	52	41.6	200	8.31	タチウオ	1	0.3	200	0.06
マナガツオ	15	3.1	500	1.53	ヒラ	1	1.1	100	0.11
マイカレイ	5	0.3	1,500	0.50	マダイ	4	4.2	350	1.48
					マナガツオ	6	2.3	500	1.14
					マイカレイ	2	0.3	1,500	0.41
合計				50.46	合計				128.97

2. 新規加入量調査の経済性

表 5 漁獲金額

魚種	尾数 (尾)	重量 (kg)	単価 (円/kg)	金額 (千円)
サゴシ	123	90.2	1,000	90.20
イホダイ	13	2	700	1.40
カワハギ	3	0.31	950	0.29
コイチ	18	13.94	200	2.79
コウライアカシタビラメ	1	0.11	700	0.08
サバ	1	0.19	200	0.04
サバフグ	2	0.83	200	0.17
シログチ	62	23.33	100	2.33
シロサメ	16	18.17	100	1.82
タチウオ	3	1.51	200	0.30
トカゲエソ	20	6.76	50	0.34
トビエイ	1	1.03	0	0.00
ハモ	5	7.71	200	1.54
ヒラ	18	15.38	100	1.54
ヒラソウダ	18	10.52	200	2.10
ホウホウ	12	1.68	200	0.34
マナガツオ	4	0.34	500	0.17
マルアジ	4	0.12	400	0.05
合計				104.94

新規加入量調査においては、サゴシのほかに 17 魚種が混獲された。

秋漁実態調査と同様に、混獲魚を重量ベースで比較すると、20%を超えて漁獲されたのはシログチのみであった。

総水揚額は約 104.9 千円、1 回の操業で 1 隻当たりの水揚額は約 17.5 千円となった (表 5)。

放流効果調査実施計画書

1 試験操業の目的

人工生産したサワラの放流効果を把握するため、さわら流網による試験操業を行う。

なお、瀬戸内海において9月1日から11月30日の間に当漁法によりサワラを漁獲することは瀬戸内海広域漁業調整委員会指示により禁止されており、試験操業に使用する漁具についても網目が10.6センチ以下であるため、瀬戸内海広域漁業調整委員会への報告を必要とする。

2 漁法：さわら流網

3 実施機関：岡山県農林水産総合センター 水産研究所

4 試験の内容

(1) 試験操業の時期等

平成23年9月から10月の間に5日実施予定（1隻×5日）

(2) 操業方法

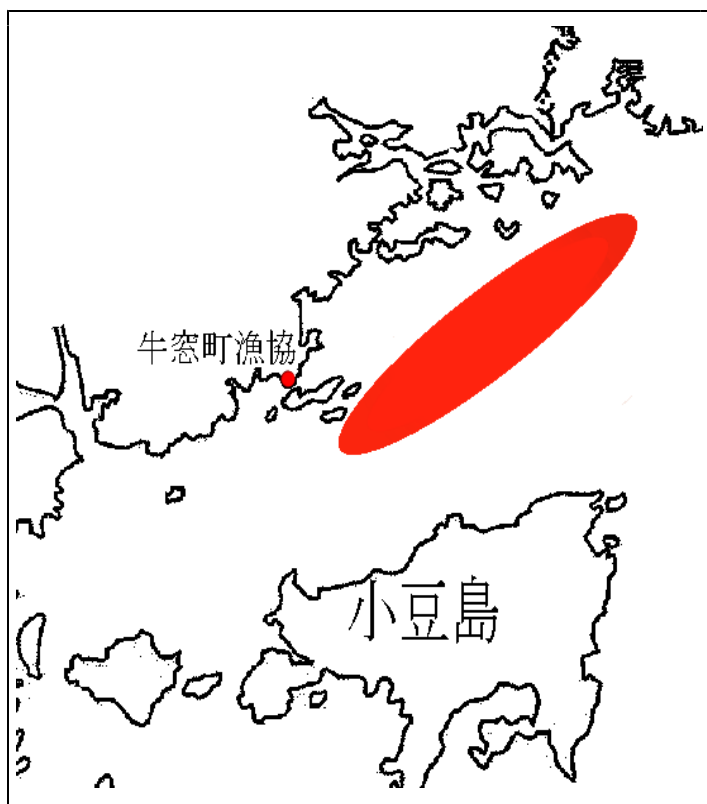
各実施日1隻、1回操業時間(概ね17:00～22:00)

(3) 調査協力者：牛窓町漁協流網漁業者を予定

(4) 網の目合い等：2.7寸（8.2cm）

(5) 調査予定海域

黄島沖以東の岡山県海面



(6) その他

調査当日は、水産研究所職員が乗船する。

サワラ放流効果調査実施計画書

1 試験の目的

資源評価調査として、平成 23 年発生群のさわら新規加入量の動向を把握するため、さわら流しさし網を用いた採捕を行う。

なお、播磨灘での当該漁法による操業は、瀬戸内海広域漁業調整委員会指示により 9 月 1 日から 11 月 30 日の間がさわらを目的とした操業の禁止となっており、また、さわら流しさし網については使用する網目が 10.6 センチ以上となっているため、瀬戸内海広域漁業調整委員会への報告を必要とする。

2 試験漁法

さわら流しさし網を用いた採捕

3 調査実施機関

香川県水産試験場

4 試験の内容

(1) 試験操業の実施日

平成 23 年 10 月中に 3 日実施予定 (2 隻×3 日)

(2) 使用漁船

さわら流しさし網を操業可能な漁船 2 隻

(3) 操業方法

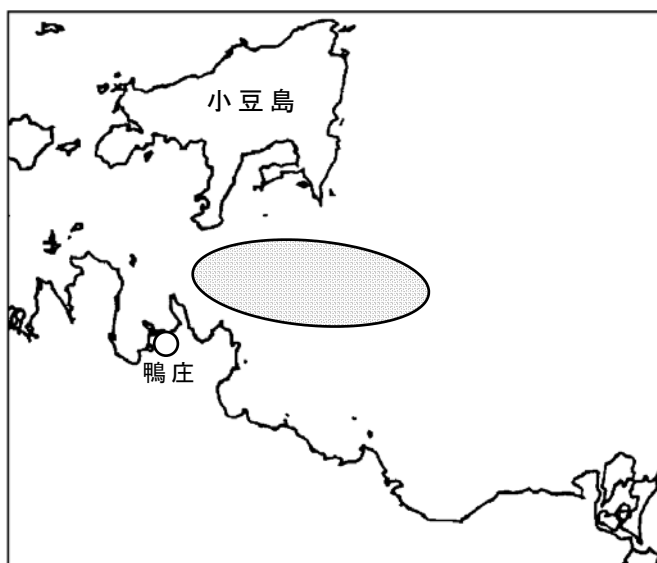
各実施日 2 隻、1 回の操業は概ね 17 時から 22 時
1 隻、2.7 寸 (8.2cm) の網 15 反を使用

(4) 調査予定海域

地蔵埼と大串埼を結んだ線
以東の香川県海面

(5) その他

香川県知事による特別採捕
許可により実施
調査当日は、水産課および水
産試験場職員が乗船



調査予定海域

サワラ秋漁実態調査実施計画書

1 試験の目的

平成14年に資源回復計画を策定して以来、平成23年度は、第2期の資源回復計画の最終年となる。さらに、資源管理・漁業所得補償制度による各県独自に資源管理指針を作成し、指針に基づく資源管理計画を漁業者自ら作成し資源管理を実践することとなる。

そこで、資源管理計画策定に向け、秋漁を再開した場合のサワラ資源に対する漁獲圧の状況を確認し、今後の資源管理方策検討のための基礎データを蓄積するため、さわら流しさし網を用いた採捕を行う。

なお、播磨灘・備讃瀬戸海域での当該漁法については、瀬戸内海広域漁業調整委員会指示により9月1日から11月30の間はサワラを目的とした操業が禁止されており、瀬戸内海広域漁業調整委員会に対し、調査計画及び結果の報告が必要である。

2 試験漁法

さわら流しさし網を用いた採捕

3 調査実施機関

香川県水産試験場

4 試験の内容

(1) 試験操業の実施日

平成23年10、11月中に月2回実施予定（2隻×4日×2回＝延べ16隻）

(2) 使用漁船

さわら流しさし網を操業可能な漁船2隻

(3) 操業方法

各実施日2隻、1回の操業は概ね17時から22時

1隻につき、10.6cm（3.5寸）の網

播磨灘15反、備讃瀬戸620メートルを使用。

(4) 調査予定海域

①播磨灘：地蔵崎と大串崎を結んだ線以東の香川県海面

②備讃瀬戸：大槌島・小槌島を結んだ線以西の香川県海面

(5) その他

香川県知事による特別採捕許可により実施

調査当日は、水産課および水産試験場職員が乗船



試験操業海域（予定）